



Linux システムへの Unified Manager のインストール

Active IQ Unified Manager

NetApp
June 23, 2025

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager/install-linux/task_create_custom_user_home_directory_and_umadmin.html on June 23, 2025. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

Linux システムへの Unified Manager のインストール	1
カスタムユーザのホームディレクトリと umadmin のパスワードを作成しています	1
Unified Manager をダウンロードしています	2
Unified Manager をインストールします	3
Unified Manager のインストール時に作成されるユーザ	6
JBossのパスワードを変更する	7

Linux システムへの Unified Manager のインストール

Unified Manager をダウンロードしてインストールする一連の手順は、インストールシナリオによって異なります。

カスタムユーザのホームディレクトリと **umadmin** のパスワードを作成しています

Unified Manager をインストールする前に、カスタムのホームディレクトリを作成し、umadmin ユーザのパスワードを独自に定義できます。このタスクはオプションですが、サイトによっては Unified Manager のデフォルトのインストール設定とは異なる設定が必要になることがあります。

開始する前に

- に記載されたシステム要件を満たしている必要があります ["ハードウェアシステムの要件"](#)。
- Red Hat Enterprise Linuxシステムにrootユーザとしてログインできる必要があります。

Unified Manager のインストール時、デフォルト設定では次のタスクが実行されます。

- umadmin ユーザが作成され、「/home/umadmin」がホームディレクトリに設定されます。
- umadmin ユーザにデフォルトのパスワード「admin」を割り当てます。

一部のインストール環境では '/home へのアクセスが制限されているため' インストールは失敗しますホームディレクトリは別の場所に作成する必要があります。また、サイトによっては、パスワードの複雑さに関するルールが設定されている場合や、インストールプログラムではなくローカルの管理者が設定したパスワードが必要な場合があります。

インストール環境でデフォルトのインストール設定とは異なる設定が必要な場合は、次の手順に従って、カスタムのホームディレクトリを作成し、umadmin ユーザのパスワードを定義します。

インストール前にこの情報を定義しておけば、インストールスクリプトで設定が検出され、定義した値がデフォルトのインストール設定の代わりに使用されます。

また、Unified Manager のデフォルトのインストールでは、sudoers ファイル（「ocum_sudoers」と「ocie_sudoers」）の「/etc/sudoers.d/」ディレクトリに umadmin ユーザが追加されています。セキュリティポリシーや一部のセキュリティ監視ツールによってこのコンテンツを環境から削除した場合は、再度追加する必要があります。Unified Manager の一部の処理では sudo 権限が必要なため、sudoers の設定を維持する必要があります。

環境内のセキュリティポリシーでは、Unified Manager メンテナンスユーザの sudo 権限を制限しないでください。制限されている権限があると、一部の Unified Manager 処理が失敗することがあります。インストールの完了後に umadmin ユーザとしてログインして、次の sudo コマンドを実行できることを確認します。

```
「sudo systemctl status ocie」
```

エラーが発生せずに ocie サービスの適切なステータスが返されれば問題ありません。

手順

1. サーバに root ユーザとしてログインします。
2. 「メンテナンス」という umadmin グループアカウントを作成します。

「groupadd maintenance」
3. メンテナンスグループの任意のホームディレクトリにユーザアカウント「umadmin」を作成します。

「adduser — home <home_directory> -g maintenance umadmin」

4. umadmin のパスワードを定義します。

「passwd umadmin」をクリックします

umadmin ユーザの新しいパスワードの文字列を入力するように求められます。

Unified Manager のインストールが完了したら、umadmin ユーザのログインシェルを指定する必要があります。

Unified Manager をダウンロードしています

Unified Manager をインストールするには、Unified Manager の .zip ファイルをネットアップサポートサイトからダウンロードする必要があります。

開始する前に

ネットアップサポートサイトのログインクレデンシャルが必要です。

Red Hat Enterprise Linuxシステム用のUnified Managerインストールパッケージをダウンロードします。

手順

1. ネットアップサポートサイトにログインし、Unified Manager のダウンロードページに移動します。

["ネットアップサポートサイト"](#)

2. 必要なバージョンの Unified Manager を選択し、エンドユーザライセンス契約（EULA）に同意します。
3. Linux 用の Unified Manager インストーラファイルをダウンロードし、.zip ファイルをターゲットシステムのディレクトリに保存します。



- お使いのRed Hat Enterprise Linuxシステムに対応した正しいバージョンのインストーラファイルをダウンロードしてください。インストールされているRed Hat Enterprise Linux 8または9に基づいて、適切なバージョンのUnified Managerファイルをダウンロードして`.zip`ください。
- コード署名証明書をダウンロードすることを推奨します (.pem) およびデジタル署名 (.sig) をと共に使用します .zip ファイル。

4. ダウンロードしたソフトウェアのチェックサムの整合性を確認します。
5. コード署名証明書とデジタル署名をダウンロードした場合は、インストーラファイルの整合性を確認できます。インストーラファイルの整合性を確認するには、次のコマンドを使用します。

- このコマンドは、コード署名証明書から公開鍵を使用してファイルを作成します。

```
openssl x509 -pubkey -noout -in AIQUM-RHEL-CLIENT-INTER-ROOT.pem >  
<public_key_file_name>
```

- ここで、`* AIQUM -RHEL-client-inter-root.pem *`は、コード署名証明書を含むファイルです。
- このコマンドは、インストーラファイルの署名を検証します。

```
openssl dgst -sha256 -verify <public_key_file_name> -signature  
<signature_file_name> ActiveIQUnifiedManager-<version>.zip
```

のようなメッセージが表示されます `Verified Ok` インストーラファイルが安全に使用できることを確認します。

Unified Manager をインストールします

Unified Managerは、Red Hat Enterprise Linuxの物理プラットフォームまたは仮想プラットフォームにインストールできます。

開始する前に

- Unified Manager をインストールするシステムがシステムおよびソフトウェアの要件を満たしている必要があります。

を参照してください ["ハードウェアシステムの要件"](#)。

を参照して ["Linux ソフトウェアとインストールの要件"](#)

- Unified Manager の .zip ファイルをネットアップサポートサイトからターゲットシステムにダウンロードしておく必要があります。
- ダウンロードしたの整合性を確認しておく必要があります .zip ファイル。
- サポートされている Web ブラウザが必要です。
- ターミナルエミュレーションソフトウェアでスクロールバックが有効になっている必要があります。

Red Hat Enterprise Linuxシステムには、必要なサポートソフトウェア（Java、MySQL、その他のユーティリティ）の必要なバージョンがすべてインストールされているか、一部の必要なソフトウェアのみがインストールされているか、または必要なソフトウェアがまったくインストールされていない新規にインストールされたシステムかもしれません。

手順

1. Unified Manager をインストールするサーバにログインします。
2. 該当するコマンドを入力し、インストールをサポートするためにターゲットシステムでインストールまたはアップグレードが必要なソフトウェアを特定します。

必要なソフトウェアと最小バージョン	ソフトウェアとバージョンを確認するコマンド
OpenJDKバージョン11.0.25	「 java -version 」 のように指定します
MySQL 8.4.4 Community Edition	「 rpm -qa
grep -i mysql 」 と入力します	p7zip 16.02
rpm -qa	grep p7zip

3. インストールされているMySQLのバージョンがMySQL 8.4.4 Community Editionより前の場合は、次のコマンドを入力してアンインストールします。

```
rpm -e <mysql_package_name>
```

依存関係エラーが発生した場合は '--nodeps' オプションを追加してコンポーネントをアンインストールする必要があります

4. インストール用の「.zip」ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動し、Unified Manager のバンドルを展開します。

'ActiveIQUnifiedManager--<version>.zip' を解凍します

Unified Manager に必要な「.rpm」モジュールがターゲットディレクトリに解凍されます。

5. ディレクトリに次のモジュールがあることを確認します。

```
ls *.rpm`
```

「 netapp - um <version>.x86_64.rpm 」

6. インストール前スクリプトを実行して、Unified Manager のインストールと競合するシステム設定やインストール済みソフトウェアがないことを確認します。

```
'UDO./PRE_INSTALL_check.sh'
```

インストール前スクリプトは、システムに有効なRed Hat Enterprise Linuxサブスクリプションがあるかどうか、およびシステムが必要なソフトウェアリポジトリにアクセスできるかどうかを確認します。問題が検出された場合は、Unified Manager をインストールする前に修正する必要があります。

Red Hat Enterprise Linux 8 システムの場合、JDK 11-OpenJDK、p7zip、その他のAppStream リポジトリが提供するソフトウェアパッケージを使用した内部リポジトリがある場合、AppStream リポジトリを無効にしてMySQL Community Server をインストールする必要があります。次のコマンドを実行します。

```
# sudo yum --disablerepo=rhel-8-for-x86_64-appstream-rpms install
mysql-community-server
```

7. * オプション： * システムがインターネットに接続されておらず、インストールに必要なパッケージを手動でダウンロードする必要がある場合にのみ、手順 7 を実行する必要があります。インターネットにアク

セスできるシステムで、必要なすべてのパッケージがある場合は、ステップ8に進みます。システムがインターネットに接続されていない場合やRed Hat Enterprise Linuxのリポジトリを使用していない場合は、次の手順に従って、必要なパッケージが揃っているかどうかを確認し、足りないパッケージをダウンロードします。

- a. Unified Managerをインストールするシステムで、使用可能なパッケージと使用できないパッケージのリストを表示します。`+ yum install netapp-um<version>.x86_64.rpm --assumeno`

"Installing : " セクションの項目は現在のディレクトリにあるパッケージで、 "Installing for dependencies : " セクションの項目はシステムにないパッケージです。

- b. インターネットにアクセスできるシステムで、不足しているパッケージをダウンロードします。

`yum install <package_name> --DownloadOnly --downloadaddir=.`



yum-plugin-downloadonly プラグインは、Red Hat Enterprise Linux システムで常に有効になっているとは限りません。インストールを実行せずにパッケージをダウンロードするために、「`yum install yum-plugin-downloadonly`」という機能を有効にする必要がある場合があります

- a. インターネットに接続されたシステムから不足しているパッケージをインストールシステムにコピーします。
8. root ユーザとして、または「`sudo`」を使用して、次のコマンドを実行してソフトウェアをインストールします。

`yum install NetApp-um <version>.x86_64.rpm`

このコマンドを実行すると、.rpm パッケージ、必要な他のすべてのサポートソフトウェア、および Unified Manager ソフトウェアがインストールされます。

インストールがGPG NOKEYエラーで失敗した場合は、を使用します `rpm --import URL`からキーをインポートするには、次の手順に従います。

`rpm --import https://repo.mysql.com/RPM-GPG-KEY-mysql-2023`



他のコマンド（など）を使用してインストールを実行しないでください `rpm -ivh`。Unified ManagerをRed Hat Enterprise Linuxシステムに正しくインストールするには、Unified Managerのすべてのファイルと関連ファイルを特定の順序で特定のディレクトリ構造にインストールする必要があり、そのためにはコマンドを使用する必要があります。 `yum install netapp-um<version>.x86_64.rpm`

9. インストールメッセージの直後に表示される E メール通知は無視してください。

この E メールは最初の cron ジョブの失敗を root ユーザに通知するもので、インストールには影響しません。

10. インストールメッセージが最後まで表示されたら、メッセージを上スクロールして、Unified Manager Web UI の IP アドレスまたは URL、メンテナンスユーザの名前（`umadmin`）、およびデフォルトのパスワードを確認します。

次のようなメッセージが表示されます。

```
Active IQ Unified Manager installed successfully.  
Use a web browser and one of the following URL(s) to configure and  
access the Unified Manager GUI.  
https://default_ip_address/      (if using IPv4)  
https://[default_ip_address]/    (if using IPv6)  
https://fully_qualified_domain_name/
```

```
Log in to Unified Manager in a web browser by using following details:  
  username: umadmin  
  password: admin
```

11. IP アドレスまたは URL、割り当てられたユーザ名（umadmin）、および現在のパスワードをメモします。
12. Unified Manager をインストールする前にカスタムのホームディレクトリで umadmin ユーザアカウントを作成していた場合は、umadmin ユーザのログインシェルを指定する必要があります。

「usermod -s /bin/maintenance-user-shell.sh umadmin」のように設定します

の説明に従って、Web UIにアクセスしてumadminユーザのデフォルトパスワードを変更し、Unified Managerの初期セットアップを実行します "[Active IQ Unified Manager を設定しています](#)". umadminユーザのデフォルトパスワードを変更する必要があります。

Unified Manager のインストール時に作成されるユーザ

Red Hat Enterprise LinuxにUnified Managerをインストールすると、Unified Managerとサードパーティユーティリティによってumadmin、jboss、およびmysqlの各ユーザが作成されます。

- * umadmin *

Unified Manager への初回ログインで使用します。このユーザーには「アプリケーション管理者」ユーザーロールが割り当てられ、「メンテナンスユーザー」タイプとして設定されます。このユーザは Unified Manager によって作成されます。

- * JBoss *

JBoss ユーティリティに関連する Unified Manager サービスの実行に使用します。このユーザは Unified Manager によって作成されます。

- * MySQL *

Unified Manager の MySQL データベーススキエリの実行に使用します。このユーザは MySQL サードパーティユーティリティによって作成されます。

Unified Manager のインストール時、これらのユーザに加え、対応するグループとして maintenance、jboss、および mysql の各グループが作成されます。maintenance グループと jboss グループは Unified Manager によって作成され、mysql グループはサードパーティユーティリティによって作成されます。



Unified Manager をインストールする前にカスタムのホームディレクトリを作成して独自の umadmin ユーザのパスワードを定義していた場合、インストール時に maintenance グループまたは umadmin ユーザがもう一度作成されることはありません。

JBossのパスワードを変更する

インストール時に設定されたインスタンス固有の JBoss パスワードをリセットできます。このセキュリティ機能によって Unified Manager のインストール設定が上書きされてしまいます。必要に応じて、パスワードをリセットすることもできます。この処理を実行すると、MySQL へのアクセス時に JBoss で使用するパスワードも変更になります。

- Unified ManagerがインストールされているRed Hat Enterprise Linuxシステムへのrootユーザアクセスが必要です。
- ディレクトリ /opt/NetApp/essentials/bin' の中の 'password.sh' スクリプトにアクセスできる必要があります

手順

1. システムに root ユーザとしてログインします。
2. 次のコマンドを記載された順序で入力して、Unified Manager サービスを停止します。

```
'systemctl stop ocieau
```

```
'systemctl stop ocie
```

関連付けられている MySQL ソフトウェアは停止しないでください。

3. 次のコマンドを入力して、パスワードの変更プロセスを開始します。

```
/opt/NetApp/essentials/bin/password.sh resetJBossPassword
```

4. プロンプトが表示されたら、新しい JBoss パスワードを入力し、確認のためにもう一度入力します。

パスワードは 8~16 文字で指定し、数字、大文字、小文字、および次の特殊文字の少なくとも 1 文字を含める必要があります。

```
'!@%^*-_=[]:<> ? /~+'`
```

5. スクリプトが完了したら、次のコマンドを記載された順序で入力して、Unified Manager サービスを開始します。

```
'systemctl start ocie
```

```
'systemctl start ocieau
```

6. すべてのサービスが開始されたら、Unified Manager UI にログインできます。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。